

製品名: ヒスタミン H1 受容体 (リン酸化 Ser398) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04772

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	HRH1
別名	HRH1; Histamine H1 receptor; H1R; HH1R
遺伝子 ID	3269.0
SwissProt ID	P35367
免疫原	抗血清は、ヒトヒスタミン H1 受容体の Ser398 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 364-413

背景

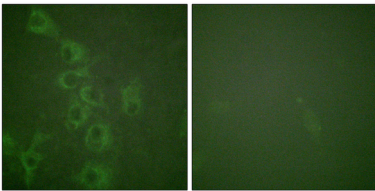
ヒスタミンは、肥満細胞、腸管クロム親和性細胞様細胞、およびニューロンから放出される普遍的なメッセンジャー分子です。その

様々な作用は、ヒスタミン受容体 H1、H2、H3、および H4 を介して媒介されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は膜貫通タンパク質であり、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属します。ヒスタミンは、平滑筋の収縮、終末細静脈の収縮による毛細血管透過性亢進、副腎髄質からのカテコールアミンの放出、および中枢神経系における神経伝達を媒介します。記憶学習、概日リズム、体温調節など、複数のプロセスに関連していることが知られています。また、アトピー性皮膚炎、喘息、アナフィラキシー、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患の病態生理に寄与することも知られています。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエーションが同定されています。 [Reffunction 提供:末梢組織において、ヒスタミン受容体の H1 サブクラスは、平滑筋の収縮、末端細静脈の収縮による毛細血管透過性の増加、副腎髄質からのカテコールアミン放出を媒介するほか、中枢神経系における神経伝達を媒介する。]、PTM:第3細胞質ループにおけるリン酸化の潜在的部位は、受容体分子を介したシグナル伝達の調節において重要な役割を果たす可能性がある。、類似性:G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。、

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



ヒスタミン H1 受容体 (リン酸化 Ser398) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。